

校 園 名： 京 都 教 育 大 学 附 属 高 等 学 校

所在地：〒612-8431 京都市伏見区深草越後屋敷町 111 電話番号：075-641-9195

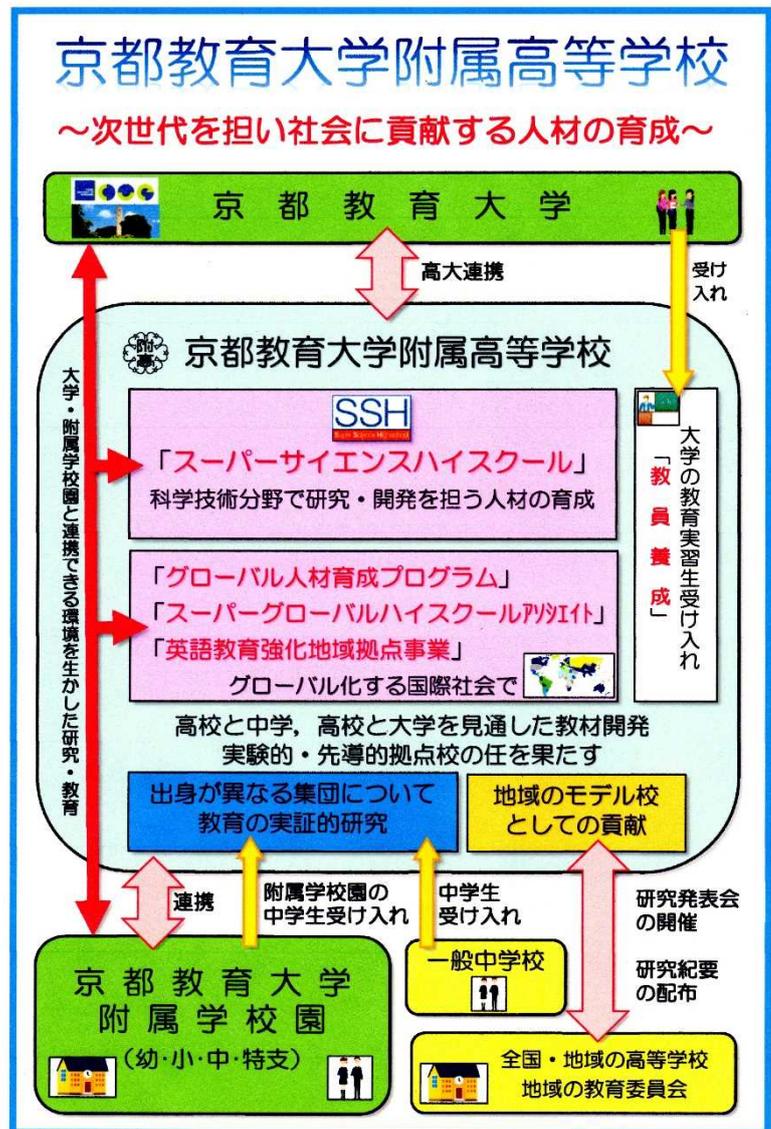
記載日：平成 28 年 5 月 30 日 記載者：市田 克利 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について

本校は、「民主的、文化的、平和的な人間の育成を基盤とし、高い知性、健康な身体、豊かな情操の調和した人間の育成に努める」ことを教育方針としています。校章には、円形に配した6個の橘の実が図案化され、教育方針である民主・文化・平和・健康な身体・高い知性・豊かな情操を表しています。昭和40年開校以来、その教育方針のもと、創立50年を経て、培われた自主・自律を旨とする校風を引き継ぎ、勉学だけでなく、これから自らの足で人生を歩み出す高校生にふさわしい人間教育基礎を完成させる時期である点を重視し、確かな学力と豊かな人間性の確立を目指しています。

また、教員養成大学の附属学校として、大学教員による専門性や大学施設・設備を活用した先進的な教育機会を設け、さらに京都にある地の利を生かして他大学や研究所等専門家の協力も得ながら、より質の高い教育の実現に努めています。

平成14年度から現在まで継続して文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の研究指定を受け、将来の科学技術の発展を担う人材の育成を目標に、従来の高校の枠組みを超えた教育・研究活動を実践しています。平成26年度からは、文科省指定「英語教育強化地域拠点事業」として英語教育の連携に取組み、英語教育の高度化をめざした授業開発をおこなっています。さらに大学が主導する「グローバル人材育成プログラムの開発」にも附属学校園が連携して取組み、その実践研究の成果を全国に発信しています。また、平成28年度よりグローバル・リーダー育成に資する教育の開発・実践に取り組むスーパーグローバルハイスクール（SGH）アソシエイトに位置づけられています。



また、平成28年度よりグローバル・リーダー育成に資する教育の開発・実践に取り組むスーパーグローバルハイスクール（SGH）アソシエイトに位置づけられています。

貴校の卒業生の活躍状況について

学校として卒業時の進路先の状況は把握しています。卒業後は、機会があれば随時把握しています。特に近年はSSHでの卒業生の調査が定期的であり、その際に追跡調査を兼ねることが出来ます。SSH指定以来、理科系分野に進学する生徒が増加し、大学や企業の研究者を目指す卒業生や、すでに研究者として活躍する卒業生もいます。

また、同窓会においても一定の範囲で卒業生の状況は把握しています。平成26年の創立50周年時に、多数の同窓会員が参加する集いがあり、そこで多数の状況を把握する機会にもなりました。本校卒業生は、大学教員・研究者・医療・芸術・文化・政財界等々のあらゆる分野で活躍しています。これまでも、各界において京都をはじめ、関西・全国、そして国際的に活躍する著名な人材を数多く輩出しています。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について

特に具体的な追跡調査はおこなっていませんが、京都府教育委員会、京都市教育委員会との交流人事における懇談会、および研究発表会等での直接の情報交換によって、活躍状況を確認しています。また、管理職が京都府教育委員会、京都市教育委員会を訪問する機会もあり、その際に個別に情報を把握することができます。本校から公立学校へ戻られた後は、府・市の各教科の研究会で活躍されるほか、SSH研究指定以来、公立学校のSSH担当者として研究推進に取り組む教員も多くなっています。管理職など学校経営の重責を担った教員も存在しています。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

本校は、京都教育大学と密接に連携し、大学教員の指導や助言を得ながら、将来、国際的に活躍できる科学技術系人材の育成、およびグローバル人材の育成に向けて、以下の具体的な教育研究に対して実践的に取り組んでいます。

①「[文部科学省 スーパーサイエンスハイスクール \(SSH\) 研究開発指定](#) (平成14年度～平成31年度)」

本校は、これまでSSH第1期（平成14年度～16年度）、第2期（平成17年度～21年度）、第3期（平成22年度～26年度）そして現在、第4期（平成27年度～31年度）の研究指定を受け、科学技術系人材の育成を図ってきています。第1期～第3期へと開発してきたカリキュラムや実践を発展継承し、第4期では『科学技術イノベーション創出「kyo²サイエンスプログラム」による人材育成』を研究開発課題として、新しいプ

ログラムの開発に取り組んでいます。長年にわたるSSH研究指定で、より多くの科学技術系人材を輩出してきたそのノウハウをプログラム化し、全国に発信し、活用されることを目指しています。特に第4期では、全教科でアクティブ・ラーニングを取り入れた授業展開や、より充実した課題研究の取組に力を入れています。

また、SSHの取組では、授業に特徴を持たせるだけでなく、



外部講師の招へいや、京都教育大学をはじめ多くの大学・研究機関・地域の企業等の連携事業をこれまでも多数行い、現在も充実させたかたちで取り組んでいます。第3期からは、SSN（スーパーサイエンスネットワーク）を構築し、京都府教育委員会・京都市教育委員会、および近隣の私立高校と連携し、京都府立高校 49 校、京都市立高校 9 校、近隣私立高校 10 校が、本校の SSH の活動に参加できる取組を現在も行い、地域の科学技術系人材育成にも貢献しています。

②「文部科学省 英語教育強化地域拠点事業 研究開発指定（平成 26 年度～）」

小学校英語教育の早期化・教科化に向けたカリキュラムのあり方研究として、中学校・高等学校への円滑な移行と教育内容の高度化を目指した小・中・高の 12 年間の英語教育をつなぐカリキュラム開発と実践研究を、附属桃山小学校と附属桃山中学校と本校と共同で行っています。

この成果は、報告書の発刊のみならず、小・中・高が同じ日に英語の授業を公開する研究発表会を開催し、地域はもとより、全国に広く発信しています。



③「グローバル人材育成プログラムの開発」（平成 26 年度～）」

京都教育大学が、幼稚園から高等学校までの校種の附属学校を擁する教員養成大学である特色を生かし、平成 26 年度から京都教育大学と附属学校が一体となり、幼稚園から大学までの一貫した「グローバル人材育成プログラム」の研究開発に取り組んでいます。

教員養成大学である京都教育大学の学部学生、現職教員を含む大学院生等をこのプログラム実施の過程に参画させるとともに、実地教育を通じてこれらの成果に学ばせることで「グローバル人材育成のできる教員」の養成にも寄与することができます。



プログラム開発においては「グローバル人材育成プログラムプロジェクト委員会」を結成し、各附属学校教員と大学教員が一体となって、既存の各事業の理論的検証と改善、並びに校種間の接続を意識した新しいプログラムを検討し、カリキュラムを開発すると共に、評価基準の開発を行うことで、現下の教育改革にも対応する汎用性のあるモデルの開発を行っています。開発されたプログラムを地域はもとより全国に発信し、活用されることも目指しています。

④「文部科学省 スーパーグローバルハイスクール（SGH）アソシエイト（平成 28 年度～）」

本校は、平成 28 年度よりグローバル・リーダー育成に資する教育の開発・実践に取り組むスーパーグローバルハイスクール（SGH）アソシエイトに位置づけられています。現代の社会におけるさまざまな諸問題を的確に理解し、実効性のある方策を積極的に発信し、国際社会の旗手として先導してゆくことのできる自律・自立したグローバル・リーダー人材の育成を目指しています。地域から諸問題を考えることを起点とし、地域の企業・各種団体等、多くの外部との連携を行う予定です。また、前掲の「グローバル人材育成プログラムの開発」において、高等学校段階を水平的にさらなるボトムアップをはかるべく、「グローバル人材育成プログラムプロジェクト委員会」と密に連携を取って行く予定をしています。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか

例年、PTA 広報誌に掲載される卒業時の生徒のメッセージを見ていると、ほぼ全員が本校を卒業して良かったと言ってくれています。また、創立 50 年を経た現在、卒業生が 1 万人を超える

中、本校の教育や校風を慕い、卒業生のご息が入学されることも多くあります。さらに、その卒業生が保護者としてPTA 役員に率先して就かれることも多くあります。卒業生にとって満足度が高いことは、地域において一定の存在意義を果たしていると考えます。ただ、そのことは京都教育大学と連携し、大学教員の指導や助言を得ながら、本校が取り組んできたこれまでの教育実践や教育研究の成果であり、今後もより一層、教育研究に基づいた教育実践を行い、地域や全国に発信して行くことが必要だと考えます。

これまで本校では、附属学校の設立意義から、開校以来教育研究を行い、その成果を地域はもとより全国に発信し続けています。毎年行われている「教育実践研究集会」や毎年発行している「研究紀要」によって、地域にさまざまな情報を与えていることも本校の特色です。平成 14 年度のSSH 研究指定では、年を追うごとに取組が精選され、地域の教育委員会と連携することで、本校生徒のみならず、地域の高校生に対しての科学技術系人材育成に寄与しています。前述の「英語教育強化地域拠点事業」「グローバル人材育成プログラムの開発」「スーパーグローバルハイスクール（SGH）アソシエイト」についても SSH と同様、今後これまで以上に地域に貢献することが期待されます。

また、本校は未来の教育を支える教員を輩出するために、多くの学生の教育実習を受け入れています。京都教育大学と一体となり、長年にわたり地域により優れた教員を輩出することに取り組み、地域に貢献しています。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

まずは、教員養成の観点において、我が国の未来の教育を支える優れた教員を輩出することは、国にとって不可欠なことです。長年にわたり、多くの教育実習生を受け入れてきた附属学校にはそのノウハウが存在し、大学と一体となって教員養成を行うことで、時代に即した社会が求める教員養成ができると考えます。大学の附属であるからこそできることです。

本校も、21 世紀社会、グローバル社会を担う人づくり、そしてその重責を担う教育者としての教員養成を目指して、「教育の総合大学」としての理念を掲げる京都教育大学と有機的に連携して教員養成を行っていきます。地域のために未来の教員づくりに貢献することが、本校の存在意義であると考えます。

次に、研究推進の観点から、我が国の未来の教育を創り上げていくことは、国にとっては不可欠なことです。長年にわたり大学と連携をとり、地域や全国の教育力や教育環境を向上させるために、先導的・実験的な教育研究を行ってきた附属学校には、教員養成と同様にノウハウが蓄積されています。附属学校でしかないような文献や資料、そして研究を推進する気質は、まさに財産と言えます。高等教育機関である大学と一体となって研究推進することで、より高いレベルでの先導的・実験的な教育研究を行うことができ、未来の教育を創り上げていくことに貢献できると考えます。これも大学の附属であるからこそできることです。

本校も、これまでの研究推進を礎に、未来の教育のために近年の研究課題とされていることを中心に、京都教育大学と有機的に連携して教育研究を行っていきます。前述の「スーパーサインスハイスクール（SSH）」「英語教育強化地域拠点事業」「グローバル人材育成プログラムの開発」「スーパーグローバルハイスクール（SGH）アソシエイト」については、その成果により、地域のためにさまざまな能力を備えた人材の育成に貢献することが期待できます。今後も本校での研究推進によって、地域のための未来の教育に貢献することが、本校の存在意義であると考えます。